かぜ・そら・たいようぐみ クラスだより

2月

2023.2.28

えんまちまぶね
りんぽえん

寒さの中にも少しずつ暖かい日差しが感じられるようになりました。いよいよ今年度もあとわずか…一日一日を大切に、卒園や進級に向けを膨らませながら、思いきり楽しんで過ごしたいと思います。

かぜぐみ

◎制作展

1月に入り、描く・作る活動を多く進めてきました。描画では、自分が描きたいことは頭では浮かんでいるものの、思うように描けず涙する姿や、紙いっぱいに勢いよく描くことを楽しんでいる子ども、「これは目で、これは口」と話しながら描く子どもなど、様々です。自分が描いた丸や線に思いを託して描くことが面白いと思うところから、段々と描きたいことを自分でイメージを広げながら描き、思いを話せるようになっています。"○○を描く!"と決めてから描く子どももいれば、描いた形から連想してイメージを広げていく子どももいます。そのような様々な姿もそれぞれの成長の過程であり、1枚1枚に子どもたちの物語があります。

年度始めは絵のお話も「にじ」や「ぼくと○○くん」などの単語が主でしたが、「○○ちゃんと～したところ」「どうさん～してるの」など文章でのお話も考えて出来るようになってきているところでも成長を感じています。年度末には子どもたちの1年間描いたお絵かきを持ち帰るので、またお家でも子どもたちと一緒に見て話す時間を大切にしてもらいたいなと思います。作品では「毛糸でぐるぐる」と「リルトペインティング」を作りました。「毛糸でぐるぐる」では、はさみで切ることや、色々な形を組み合わせてイメージして作ることを大切にして進めました。決まった形ではなく、子どもたちが自由に切った形で組み合わせたかたちを、それぞれ違う作品ができました。「リルトペインティング」では、日常の造形活動ではあまり使うことのない塩を使い、子どもたちは「魔法の粉」と言って1つ1つの工程を楽しんでいました。沢山の保護者の方に見ていただき、「すごい!」って言ってたら「早く持って帰りたい!」と嬉しそうに話す姿が見られました。

◎4歳半のふし

幼児期の前半から後半にかけて成長していく時に、発達のふしを乗り越えていきます。発達のふしとは、今までの自分を一旦壊して新しい自分を作っていくことです。この時、子どもは周囲の人との間で大きな摩擦を起こすことがあります。今までの自分を壊そうとする時、今までのやり方をしなくなったり自分なりに新しいやり方をしたりしようとして、周囲の人の思いに逆らうような姿を見せることもあります。今まで出来ていたことをしなくなったり、今までなら褒められると頑張っていた子どもが、かえって反対のことをしたりすることがあります。「赤ちゃんがえり」と言われる姿がこれまで以上に強まる時でもあるのです。子どもたちは「お兄ちゃん、お姉ちゃん」として前向きに頑張るのではなく、もう一度大きくなるということはどういうことなのか自分なりに掴み直しています。甘えられて嬉しかったけど、やっぱり大きくなって嬉しいなと感じられるような経験を積み重ねていくことが大事です。"なんでそんなことするの!!"とイライラすることもあるかもしれませんが、その姿だけを見て判断せずに裏側にある子どもの思いを受けとめ、家庭でも保育園でもあたたかく見守っていければと思います。

そらぐみ

2月がもう終わろうとしています。あと1ヶ月でたいよう組になるんだよとお集まりの時に話していると「おとまりとかいけるね」と楽しそうに話していたり、まだ実感が湧いていなかったりと様々な反応が見られます。4月当初に比べて、友だちとの関わりも変化し、相手を思って行動し意識することが増え、成長を感じます。

3日には、節分がありました。当日は鬼が怖くて泣き出してしまう子どもがほとんどでしたが、保育者が「ちょっと様子を見てくるね」というと、「あかん。せんせい、いかんとって、あぶないで」と保育者のことも心配する姿もありました。みんなで作った豆(新聞)で鬼を追い払う中で弱い心や気持ちが鬼となって現れるということを話していました。

インフルエンザも急速に流行り、お休みの子どもも多く全員がそろうことも少なかったですが、今後も手洗いうがいを心がけて、そら組としての生活を元気に過ごしていきたいと思います。

〈制作展〉

2月前半から制作展に向けての取り組みをほとんど毎日のようにしてきました。絵本からイメージを広げて、紙粘土と廃材を使った作品と、自分の顔の作品の2点を作りました。子どもたちが絵本を見ている時にも登場人物の気持ちに寄りそい、また、お話が終わってからも「どうなったんやろ?」と想像を膨らませながら楽しむ様子が見られたので、一人ひとり形に表してみようと考えました。今回は「ないしょでんしゃ」という絵本からでしたが、子どもの中には絵本の内容に限らず、「出てきたらおもしろい」というオリジナルのものも出てきて、見ている保育者も楽しい気持ちになりました。子どもの見立てには、なるほどと感心します。普段は捨ててしまう廃材も制作で使えば物の特徴をよく見て、繋げることが出来る大事な素材となります。友だち同士仲よくお話しながら友だちが作った作品をじっくりと見て、ヒントをもらっている子どももいました。

また、顔の作品では最初、厚紙に自分で輪郭を書いてはさみで切ったのですが、厚紙が少し硬いのと、耳の部分を切るのに、紙を回さないといけないので、はさみの使い方に大分慣れてきてはいますが、「うまく切りたいのに…」という気持ちと重なって苦戦していました。顔のパーツの場所を鏡や手で触り、確めながら貼っていきました。目や口、ほっぺたなど素材を自分で選び、あてはまるもので作っていったので、これも一人ひとり違いがあり、おもしろいねと話していました。

他クラスの作品をみんなで見て回る時間も作り、様々な作品に触れ、口々に感想を言いあい「すごいねー」とか「かわいい」など微笑ましく、見守っていました。

たいようぐみ

今月は制作を中心に楽しみ、過ごしました。

スチレン版画はスチレンボードに力を加えるとへこむので、鏡を見ながら自分の顔をえんぴつで描き、ローラーで絵の具をつけて、裏からバレンで擦りました。ローラーやバレンを使うことは初めてだったので、みんなで集まってきて一人できる度にお一!!!っと歓声があがっていました。「まえがみはこのくらい」「くちびるへんなかたちやなあ」とよく見て描いていた子どもたち。みんななかなか特徴を捉えていて似ています。

節分には鬼のお面を作りました。顔を真っ赤にして風船を膨らませていました。その風船の上半分に小さく切った、新聞紙と障子紙を水で溶いたボンドに浸して貼っていきます。1日乾かしたら、風船を割って土台が完成しました。絵の具で色を塗り、顔のパーツを作ります。たいよう組が鬼になって毎年各クラスをまわるので、"こわいのにしたい!"とまゆ毛の角度や口の大きさを工夫していました。当日は大成功!小さい子どもたちが泣いてしまったので、お面をとって「わたしでーす。たいようさんでしたー!」と正体を明かしていました。

そして、粘土ではオニのサラリーマンの絵本を題材に、オニのサラリーマンの世界を作りました。グループに分かれ、どの場面を作るか、話し合います。まだまだ折り合いをつけたり、相手の思いを汲み取ることは難しく、話し合いが難航すると、一人で作る子どももいましたが、一緒の場面を作って盛り上がる子どももいました。時々絵本を開いて確認しながら、「あっあれもつくりたい!」「ちょっとあっちのじごくつくるの、てつだってくる」とグループを超え楽しんでいました。みんなの粘土板をくっつけて完成～!!

「○○ちゃんがつくったはりやまじごく、とげとげー!」「ちのいけじごく、おっきいなあ…」と友だちの作ったところもみんなで作った作品として感想を言い合い喜んでいました。

心を合わせる面白さをたくさん経験してきた子どもたち。保育園で過ごす時間も残すところ1か月となりました。3月は卒園に向けて大きくなった自分やたいよう組の仲間を感じながら楽しい思い出をたくさん作りたいです!